



2004年7月18日(日)「菊花山・御前山ハイキング」に出かけました。場所は、山梨県大月市。晴天に恵まれ、気温はぐんぐん上昇します。桜井さんは、電車の中に帽子を忘れて一時パニック状態(?)。そして、菊花山への登山口を探すのに一苦労し、菊花山から御前山に向かったものの、到着した山頂には“馬立山”の文字が...?そこで昼食中のグループに尋ねると道を間違えたことが判明。彼らは、猿橋から御前山を経て、ここに到着したのです。ここから、戻って御前山へという気分にはなれず、どうしよう...。馬立山からの下山ルートを探ると、“九鬼山”方向に進み、途中で田野倉駅方面への道があるので、予定を変更します。田野倉駅への最短コースを選択したものの、あまり人の入らないコースらしく、草ぼうぼうでまるでジャングル探検のよう。やっと下山した時、頭と身体はビールを求めているのですが、田野倉駅前には何もありません。たまらず小野さんが、アパートの窓から住人に酒屋の場所を尋ねます。そのやりとりを聞いていた自転車のおじさんがビールを買って来てくれます。猛暑の夏山の珍道中です。



## 帽子を忘れて...！？

朝7時30分、JR八王子駅横浜線ホームに集合したのは、小野さん、桜井さん、加藤夫妻、横山さん、加藤さんの元職場仲間の大貫洋さん、町田の7名でした。大貫さんは、横山さん同様バリバリの(?)ランナーで、今回のスタイルもいつでも走り出しそうな軽快さです。

7時38分の中央線高尾行に乗り、高尾で7時46分河口湖行電車に乗り換えます。そして、大月駅には、8時27分に到着しました。ここで、問題が発生します。実は、桜井さんが日よけのためにいつもかぶる帽子を高尾行の車内に忘れてきてしまったのです。

大月で帽子を買い求めようと思っていたのですが、コンビニに売っていそうで、売っていません。商店街に帽子屋がありそうでなく、あったとしても、開店まで時間がありすぎるのです。「私、帽子がないと...」でも、タオルをかぶって出発することに。



## 登り口がわからない

ガイドブックの地図を頼りに歩き出したものの、菊花山へのハイキングコースの標識もなく、登山口のある“無辺寺”を探してうろついたあげく、交番に入ったのですが、パトロール中。交番の隣の洗車中のおじさんに聞いて、道を教えてもらったにもかかわらず、無辺寺を探し当てるのはむずかしかったのです。無辺寺周辺に新しい道路を建設しているためか、どこが正面入口なのかよくわからないまま、境内に踏み込みます。ところが、お寺の中にも、菊花山への標識はなく、住職の家で道を聞きます。「その石段を登って、奥の院を左方向に行くと、忠魂碑があります。そこに登り口がありますよ」

石段は古く狭く急で延々と続くように見



えます。登ってみれば下から眺めたほどは長くはなく、奥の院に着きました。左方向に道があり、すぐに忠魂碑にたどり着きました。が、ここでみんな汗だくです。ここに初めて“菊花山”への標識がありました。やれやれ、こんな不親切な(?)マイナー(?)な山は初めてです。

## なつかしい“岩殿山”と“沼津アルプス”

夏で草が育っているのか？やはり、あまり人の入らぬ道なのか？草をかき分けるように上り始めます。さらに、倒木が道をふさいでいたり、道が崩れ落ちてしまい、片足ほどの狭さになっているところがあったり、急な上りがあったり、不親切なマイナーな山という先入観を持って上ってしまいます。



10時、菊花山山頂に到着。山頂は猫の額ほどの広さですが、大月駅方向の展望はよく、一昨年登った、みんながお気に入りに入っている“岩殿山”がよく見えます。電車や高速道路から眺めるのと違って、やや上から見下ろしているので、“岩殿城” 鎧岩” “兜岩” “稚児落し” と歩いたルートが確認できてなつかしい。富士山もあの時のように頭に大きな雲をかぶっています。菊花山からは、急な岩場を滑るように下り始めます。一度下って御前山を登るわけですから、





どこまで下に行ってしまうのかが、みんなの不安。思い出すのが“沼津アルプス”です。200メートル程度の山が5つなのに、ひとつひとつ下りきってから再び登ったので、みんなくたくたでした。2回目の夏の“沼津アルプス”では道を間違えて、しかも暑くて、5山のうち1山でリタイアしました。



### 前を歩くハイカーに引かれて

実は、今回もその悪夢が待ち受けていたのです。夏山は、暑くて景色を楽しむというより、早く山頂に着きたいと思いながら登り、山頂からは早く下山してビールが飲みたいと思いながら歩いていたりするもの。どこまで下るのだろうと心配しながらほぼ下りきったところが“沢井峠”で、ここからアップダウンを繰り返しながら徐々に登ります。

そして、11時にガイドブックの地図上にある反射板に到着しました。ここから本格的に登り始め、いよいよ山頂かと思うと少し平らな尾根だったりして。そして、いよいよ山頂への



詰めの登りが始まるような場所で前を歩くハイカーを発見します。そして、また1人左の道から現れて私たちの前を登り出しました。ここが“沢井ノ頭分岐”だったのです。ハイカーたち



が来た左方向が、私たちが目指す御前山だったのですが、この分岐には菊花山を示す標識しかありませんでした。なんの疑いもなく、前に現れたハイカーたちに引きずられるように進みました。



### “馬立山”って...?

やっと着いた山頂、途中から現れたハイカー達が昼食を摂っています。

でも、標識は“馬立山”となっていて、“御前山”とは書かれていません。一瞬、御前山の別名なのかなと思ったらしましたが、ガイドブックにある御前山の山頂の写真と違うのです。おかしい。食事中的ハイカー達に聞いてみると、ここは“馬立山”で“御前山”ではなく、彼らは“御前山”からここに来たということ。ここからの下山ルートは、田野倉へ向かうのが最短ということがわかりました。

時刻は11時50分。反射板から50分歩いたことになります。御前山へは反射板から30分となっていますから、本来なら...。さらに、御前山の標高が732メートル、馬立山は797メートル。これから、改めて御前山へ登る気持ちはほとんどなく、地図で田野倉への下山コースを確認し、そうすることに決め



て、昼食にしました。「ここからは下るだけなんですよ」と加藤さん。「そうです」「じゃあいいな」と取り出したのは、特製のコーヒー焼酎。大貫さんも小さなクーラーボックスから缶ビールを出します。ささやかにみんなで乾杯。うまい！



### 急がば回ればよかったかも

12時40分、出発します。山頂からの急坂を下りきると分岐があります。“札金峠・九鬼山”と“馬立山”の標識。表示のない道が田野倉への道です。実は、これも選択ミスだったのです。“九鬼山には登らないゾ！早く田野倉へ下りよう！”と思うあまりのコース選択。ちょっと遠回りに見えるのですが、札金峠経由で下山するのが一般的なのでした。

足を踏み入れた道は、ほとんど人が入らない道のように、草に覆われて道筋がわからないような場所も。いつものハイキングコースがまるで遊歩道のように思えてきます。野生の動物になったみたいに一生懸命に下ります。高度が下がり気温が上がリ、緊張感も加わって、下りだというのに



みんな汗だくになってきます。まだかなまだかなと歩き続け、そろそろ足の踏ん張りがあまってきた頃、山道が終了しました。ああ、よかった。緊張と暑さで汗をかき、ほっとして、求めるものはビール。でも、田野倉駅前には何もなかったような…。

### ビールにまつわる良い人たち

しばらく歩いて、田野倉駅に到着しましたが、やはり、何もありません。小野さんが、駅前のアパートの窓越しに住人と話しています。「この辺にビールを売っている店はありませんか？」「国道を右に行くと5分くらいでコンビニがあってそこで売っていますよ」奥さんが答えます。「ありがとうございます」しばらくして「おじさん、何本いるの？」「…6本！」「じゃあ無理だわ」自宅のストックを分けてくれようとしたのです。では、買いに行きましょうと歩き出したところへ、自転車に乗ったおじさんが登場します。「コンビニまでは5分じゃ行きませんかから、私が買ってきてあげますよ」この申し出には誰もがビックリ！見ず知らずの人にそんな…。「私も山登りをやりますから、みなさんの気持ちはよくわかります」「じゃあ、お言葉に甘えて」そう言いながらみんな一瞬“渡したお金を持ち逃げされはしないだろうか？”と思ったりして…。

10分ほどして、自転車のおじさんは、缶ビールを買って戻って来ました。少しお礼を渡そうとしたら「そんなつもりじゃないですから」と逃げるように走り去ってしまいました。疑ってゴメンなさい。

駅前で缶ビールで乾杯！

なお、今回のコースは、“倒木や藪っばいところがあり、踏跡程度の登山道もあるので、家族向きではない。地形図で現在地を読みながらルートを判断する練習に向いている。山慣れた人向けの低山なので、安易な気持ちで大勢で入山しないほしい”とガイドブックにありました。



町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
桜井利子	194-0001	東京都町田市つくし野 1-32-17 042-796-9591
加藤忠	194-0033	東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949
加藤純代	194-0033	東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949
横山和明	195-0062	東京都町田市大蔵町 2181-4 042-735-5662
大貫洋	194-0032	東京都町田市本町田 2533- 八 -1-307 042-792-1564

